

心豊かな世代が育つ

童話の里づくり

442

ーシリーズー あなたの人權・わたしの人權

『人の心と命はみんな平等』

北山田小学校 4年

後藤 芭菜

最近、テレビのニュースなどを見ていて、人が人をきずつけることがひどくなったという話をよく聞くようになりました。

わたしは、その中でも特に差別がひどくなったと感じています。

ある日、ニュースでコロナにかんする差別について話していました。コロナに感せんした人たちが病気が治って家にもどってくると、家に物を投げ入れられたり、「もどってくるな」とかばに書かれたりされたという話でした。

わたしは、この話を聞いて、二つのことを考えました。

一つ目は、差別された人は心がす

ごくきずつくということです。

そこには、差別された人にしかわからない、つらさ、悲しいなどの感情があると思います。そして、生活の中で苦しんだりしているのです。

わたしも友だちとけんかをした時、冷たい視線で見られたり、あやまつたのに冷たい態度で「いいよ」と言われたりしたことがあります。その時は、とてもさみしく、つらい気持ちでした。

二つ目は、差別をした人の気持ちです。

差別をした人は、どんな気持ちでしているのか気になりました。

もし自分が差別されたら、どんな気持ちになるのか、わかつているのだろうかとも思いました。

もしかしたら、自分がいやなことをされて、イライラした気持ちをぶつけているのかもしれない。

でも、差別は、人の心をきずつけるだけでよい気持ちにならないし、何もよいことは生まれないと思いま

す。

差別された人には、忘れられないつらい思い出になると思います。

また、人の命にかかわることにつながるものもあると思います。

人の命は、みんな平等で、だれかが特別ではなく、一人ひとつしかない大切なものです。

また、心は、だれもきずつけていないものではないし、その人にしかわからない気持ちがあります。

差別をこの世から完全になくすことはむずかしいかもしれません。

でも、差別を早く終わらせることや続けさせないこと、それ以前にさせないようにすることはできると思います。

だから、わたしは、なやんだり苦しんだりしている人がいたら、声をかけて話を聞きたいです。

そして、その人の気持ちを聞いてよりそいたいです。それから、どうしたらよいかをいっしょに考えます。わたしだけではなく、なやんでい

る人によりそえる人をふやしていきたいです。

*学年は投稿時のものです。

2021年3～4月実施、コロナウィルスに関する読売新聞の世論調査（2,155人回答）から見えるもの

*日本社会には感染者への差別が「ある」と、88%の人が回答。

*周囲の人が感染した時、自分は「差別しない」と、81%の人が回答。

*反面、自分が感染した時は差別されるのではないかという「不安」を83%の人が感じている。

この人權作文について、意見や感想、激励など、お寄せください。また、みなさんの投稿もお待ちしております。

わたしたちをとりまく様々な不合理や差別性について気づいたことや感じたことを、二〇〇字程度にまとめて、住所、氏名、連絡先電話番号を記入して（匿名可）、玖珠町教育委員会社会教育課「あなたの人権・わたしの人権」までお届けください。

